平成２０年７月３０日

各位

株式会社　徳　・株式会社傳六
ノリックス株式会社・有限会社和公
代表取締役 鷺岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。
先月の手紙の中で私どもの会社の７月から始まる新年度のテーマを「**ABCを忘れずに**」と申し上げました。**ABC**とは当たり前のことをバカにせんとちゃんとやろうの頭文字をとっています。それぞれの部署でまたそれぞれの役割の中で自分達がしなければならない当たり前のこと、この会社の一員として守らなければならないことをそれぞれの方が自覚いただけることと希望します。
それでは社長（鷺岡）のしなければならない当たり前のこととは何かと考えますと、経営の最高責任者である社長は社長の主たる仕事は会社の方向性と方針を決め、それを実行させること。そのことによって従業員が精神的、物質的に豊かになり生活基盤を安定させること。そして日々の経営活動を通して社会のためになること。この一点に尽きます。経営者や幹部の適切な判断、ものの見方、考え方がしっかりしているかどうかで会社の将来に大きな影響を及ぼし、判断や決断の過ちで会社を大きく傾かせることを肝に銘じながら会社のかじ取りをしています。本年は外部環境の変化に対応するため社内体制や食材以外の製造原価の見直しの徹底を実施いたします。以前にも申し上げたことがあるかと思いますが、弊社はここ数年新店舗を含め新規事業を展開してきました。売り上げも伸び対外的にも成長企業といわれています。しかしながらその為に業務を支え遂行する役職者が慢性的に不足し、特定の社員幹部に多くの業務が集中してしまうことが多くなり、また広範囲に広がった業務を処理する仕組みが完全ではないために会社としては成長しているのですが業務効率がどんどん悪化しているのが現状となっています。指示指揮をとらなければならない.管理監督者がプレーヤーとなってしまうことでマネジメントに時間を割く余裕がなくそのため毎日の仕事を効率的・効果的に遂行するための役割分担が不明確となってきています。「その業務の方向性や意味を確認したいのに上司が多忙なためにコミュニケーションが図れない。」「何を頑張れば評価されるのかその基準がわからない。」このような問題が数年弊社を巣食っています。解決策は組織の成果と効率を高めるための「機能分化」「階層分化」しかありません。つまり現場の自立です。私もここ数年自分自身の仕事のスタイルを変えてきたつもりです。できるだけ今までしていた仕事を周りのスタッフに任せ判断をしてもらうようにしています。任せるということは責任と権限の委譲です。目的はスタッフの力量のアップ、能力向上です。おかげで少しずつですが人が育ってきたと感じます。昨年未達であった売り上げの目標や事業計画を本年ともに達成いたしましょう。この一年間は勝負の年です。

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」
すべては自分のために。
すべてはお客様のために。
すべては会社のために。
すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう。

草々